

再編その後

あきた市平成の大合併

自立自治体 市町村 東成瀬村の10市町村。羽後町は平成15年12月、当自治体の道を選んだのは、面は自立の方向で行くこと。角市、小坂町、藤里町、五佐藤正一郎町長（当時）が、城目町、八郎瀬町、井川町、県内で初めて、自立宣言。羽後町、上小阿仁村、大編した。

「合併する、しないにかかわらず、常に行革は必要」との姿勢で町政運営を行う羽後町役場

平成十五年二月、羽後町は市町村合併に参加せず、しほは対立の構図を生む自立の道を選んだ。自立を選んだ背景には、昭和の合併宣言だった。しかし「身から五十年をかけ、一体感」の文に合った効率的な行を醸成してきた町が、平成財政運営で、自立町村のモ「デルに」と独自政策を進め始めた昨年、単独立町を運出した町長が突然、知事選に出馬。それに伴う町長選が知事選とダブルで行われることになった。町の将来をめぐって町は大奮闘したが、それでも自立の意志が揺らぐことはなかった。

大江商社町長は「地域の抱える課題が合併で解決するわけではない。合併効果は表れるには時間がかかるとも、そうしているうちにも、会では議員定数の削減や職員定数を五人削減する案で行っていた住民票や印鑑登録証明書などの交付や税金収納を郵便局に委託した。三月末までの一年間で町が郵便局に支払った各種証明書など手数料の総額は九十三万三千五百円。支所職員の年間人件費（一人当たり七百五十万円）は八百万円と比べるると、節減効果の大きさが分かる。また、町内三保育所を廃止し、土曜保育や専従児

支所廃止し業務委託

経費削減に早くも成果

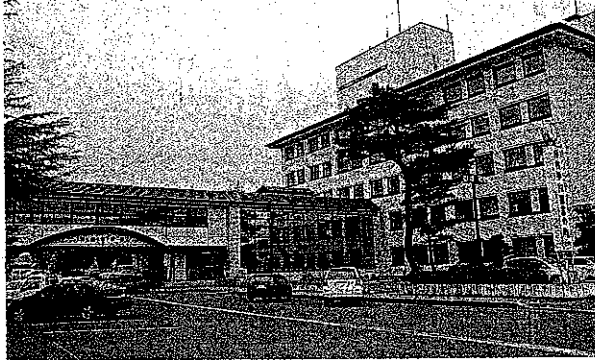
企画商工課 行政改革の一環として、さうした民間委託も今後進められよう。

第3部 自立の行方 ①

同町は昭和三十年、一町六村が合併して誕生。昭和の合併時、新たな自治体を「人口八千人」の四倍近い規模の町としてスタートだった。しかし町部を周辺

羽後町

も検討中だ。「特殊な技能が必要でなかったり、複雑でないなどの業務をもっと民間に移せば、行政サービスは、自立の道を進むべき」との幅も広がるはず」と町の「その後」を伝える。



再編その後

あきほ平成の大会報

毎週月、木曜日の二回、小坂町内のゴミ収集所には、住居を有する戸の白に、ゴミの回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載された「回収票」が貼られている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

地域の中で資源循環

「顔見える町」を目指す

毎週月、木曜日の二回、小坂町内のゴミ収集所には、住居を有する戸の白に、ゴミの回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載された「回収票」が貼られている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。



小坂町

同町は鹿角、大館両市から

第3部 自立の行方②

毎週月、木曜日の二回、小坂町内のゴミ収集所には、住居を有する戸の白に、ゴミの回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載された「回収票」が貼られている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

「回収票」は、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。この回収票には、回収日や回収時間、回収場所などの情報が記載されている。

再編その後

あきた市 平成の大合併

小坂町の自立適性を受 小坂町の自立適性を受 小坂町の自立適性を受
 おり、五人は個人で応募後、単独市を余儀なくさ 同会を結成した。
 れた鹿角市。第五次同市総 総合業務は、来半し
 合計四十一、二十二年 鹿角市の対抗の力が、電話
 に「共動」の言葉を懸 交換、郵便物の受け取り
 り込み、市民と行政が良好 で、毎日入が聞取ま
 なパートナーシップの下、 っている。週二、三日のロ
 協力し合っていることを明 花輪、十和田、鹿角、八
 記。これを「共動パートナ ねわねわ。

行政業務市民に委託

「共動」意識の醸成鍵に

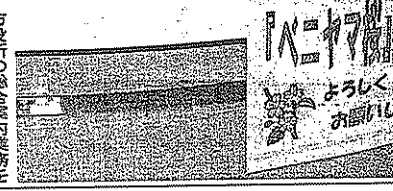
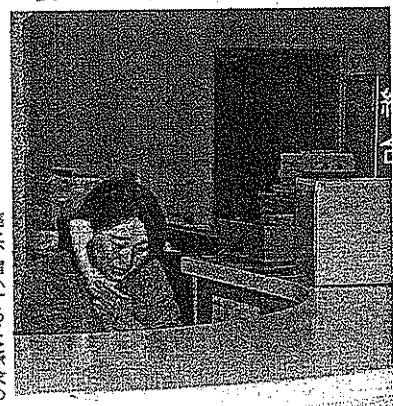
第3部 自立の行方 ③

行政の仕事の一部を市民 行政の仕事の一部を市民
 団体に委託するもので、本 団体に委託するもので、本
 年度が同制度の「元年」。 年度が同制度の「元年」。
 今日からは市民が、市役所 今月からは市民が、市役所
 の総合業務を担っている。 総合業務を担っている。
 担当するのは「スニヤ マサの会」(大森裕代表)
 の五人、先月下旬、個人 情報に関する事務委託など
 を盛り込んだ協定書を同市 と取り交わした。業務は団
 体として行っている。

「共動」意識の醸成鍵に 行政の仕事の一部を市民
 団体に委託するもので、本 団体に委託するもので、本
 年度が同制度の「元年」。 年度が同制度の「元年」。
 今日からは市民が、市役所 今月からは市民が、市役所
 の総合業務を担っている。 総合業務を担っている。
 担当するのは「スニヤ マサの会」(大森裕代表)
 の五人、先月下旬、個人 情報に関する事務委託など
 を盛り込んだ協定書を同市 と取り交わした。業務は団
 体として行っている。

鹿角市

市の最新の「財政中期見 市の最新の「財政中期見
 通し」では、十八年度から 通し」では、十八年度から
 不足が生じるとの推計が 不足が生じるとの推計が
 あり、現在の百五十億円台 あり、現在の百五十億円台
 のため制度がスタートする のため制度がスタートする
 入合計額から歳出合計額を 入合計額から歳出合計額を
 差し引いた財源不足額は約 差し引いた財源不足額は約
 二十二億円と見込まれてい 二十二億円と見込まれてい
 る。事業を見直した上で、 疑問視する声も市長から上
 がったという。



市役所の総合業務を担っている「スニヤマサの会」(会員鹿角市役所)のメンバーが、協定書の取り交わしに協力している。

再編その後

あきた「平成の大会社」

平成十五年四月に石岡鎮千人ほど。悩みの種は
 一郎町長が単独立町の方響が解ける五月中・下
 針を表明した藤里町。活句から紅葉を業しめる十一
 性化の礎を据ると目され 月上旬に宿泊客が集中し
 るのが「世界遺産白神山 残る半年が閉歇期となる」
 地」の存在だ。町は白神山とだ。
 地と里山」農林業などをリ
 ンクさせたグリーンツー
 ズム、エコツーリズムの推
 進を重要課題に掲げてい
 る。

町はこれまで「白神山水
 の館」や加工センター、マ
 イタケセンターなどの施設を非加熱でペットボトル
 を整備。第三セクターの株化した「白神山水」は、
 株式会社「藤里開発公社」が、十五年九月の発売以来
 白神観光の中核施設である 順調に売り上げを伸ばし
 ホテル「ゆとりあ藤里」として、十七年度は百三十
 合わせ、これらの施設を運 万本と一億円を越し、現在
 営している。
 白神山地を訪れる「ゆと
 りあ」の宿泊客は年間九

今年度からの販売を自給し 主導が基本。本道にも気 開発して売り込むなど、み
 て大手飲料メーカーとの提 のある人を受け、その人 んなで力を合わせていかな
 機交渉が進んでいる。「山 たちが腐敗に刺戟をやる ければならない」と、民間
 水で収益を伸ばせば、雇用 ことを期待している」と語 の取り組みの必要性を強調
 につけられる」と石岡鎮 す。
 一社長。販売目標は三百万 長年にわたり白神山地の
 本とす。
 町はまた、シンボリズム ド養成なども行っている 状。同町藤里で食堂と民宿
 やフォーラムの開催を通 「白神山地保全と観光の 「だまっし屋」を経営する
 して、地域の食材を利用 会の藤里亭一合長は、現 村岡ユキさんは「夏休みシ
 した創作料理の開発を進 在十四人のガイドで勉強 ーズン」は、宿泊の予約を断
 めてきたほか、グリーン 会を開くなどしている。 のが心苦しいほど。もっ
 ツーリズム・エコツーリ 鎮田会長は「現在、客を と民宿があればいいと思う
 ズム推進への事業計画づ どうもてなしたらいいか が、その時期は短い。採算

白神の恵み 活力源に

民主導の町づくり模索

くりにも取り組んでいる。話し合っているときも、 が合うか心配なのだろう」 やっていくには、白神の
 町事業課は「今後は、民間 われわれが呼び寄せた客 と、民宿に挑戦する町民が 資源を最大限生かすしか
 に、町の人たちがどうしな なかなか出てこない理由を ない。時間ばかりでも、
 がりむいてるかが課題。行 説明する。 町民が納得した上で進め、
 政頼みではなく、特産品を 石岡町長は「単独立町で ののが一番」と、粘り強
 く取り組みを続ける構え
 ることが期待される。同
 町藤里



藤里町

再編その後

あきた市成立の大会

住民の82%が自立選択 千二万円(十六年)と高い
 した十五年十一月のアンケートが、米価低迷などにより、
 一ト結果を受け、旧男鹿市、ビーク時(五年)の三千百
 旧若狭町の法定合併協議 四万円から二千万円ほど落
 会に参加せず、単独立村の ち込んだ。
 道を選んだ大瀧村。十六年 さらに、十九年度から導
 度の財政力指数が0.88(全 入される国の「品目横断的
 県七位)、経費収支比率が 81.2(同二位)と、財政
 面では他市町村に比べ安定 している。黒瀬町長も
 「自立のメリットは感じ ている。将来的に合併す
 るにしても、村の独自性が 失われないうまな広域合併
 の形にならなくてはなる。 大瀧村は、県立短大生を
 除く村約七百五十戸のう ち七割超の五百四十戸が
 農家(四月一日現在)。大 半が大規模農家のため、一
 戸当たりの平均収入は二

第3部 自立の行方 ⑤

管内に誘導している。 基幹産業の米だけでなく、社の契約農家約九十戸が加
 主業の業が減り続け、村に合った畑作への取 工用米を栽培するといふ計
 中、村やJA大瀧村は加り組みも始めている。今年 画が終了し、温床の度が深
 工用米の需要拡大、メロ から作付けをスタートした まっている。
 へのの施設園芸に注力 園芸団地(百の代表例。黒瀬町長は「稲米への換
 見たいといっている。十 住地近くの原宿地十六畝、然して不安が、事態を危
 五年は言八畝だった加用 米の作付面積はわずか三年 どの「生産ゾーン」を設定 かもしれない」と、この問
 で四倍に増えた。JAは米 販売の許認可申請中 五十四人に貸し出したと 民営で具体的な生産の
 で、富岡町組合長は「平 拓地のため、畑作が困難な ったという。
 圃場が多いのが村のネック 村は、村内の団体「オー に今なればいけない」
 だった。加工用米は大きな ガニック・ファーム大瀧」と語った。

「村の独自性」を重視

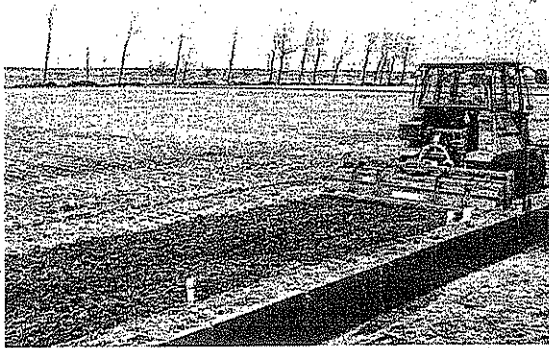
農政の変革に危機感も

経営安定対策」は感反非協 力農家が助成の対象外で、 生産調整に参加していない
 はあはれてしまう。園芸の 可能性がどの」と言信を見
 「危機感」が、せ。

大瀧村

が昨年、畑地として農畜連 かつて「ヤミ米採」減 た村への入植者は計五百八
 から購入した土地に米を作 反顧守派に二分された園 十九人。その多くが六十歳
 付けた問題をめぐり揺れの 付けた問題をめぐり揺れの 付けた問題をめぐり揺れの 付けた問題をめぐり揺れの
 ている。今年も、この団体 発揮するへ自立の道を進む 委譲した農家は77%以上
 の代表が経営する米販売会 だ。昭和四十一年に始まる。農政の変革と世代交代

水田の耕起作業のシーン。米価の低下が続く中、加工用米に注力を見いだすといふ農家も増えて いる大瀧村



第3部 自立の行方⑦

再編その後

あきた 平成の大合併

「住民には町村合併より 三年春の開業を目指す」と病院建設が大事。昨年一建設計画を初めて示し、月末に開かれた湖東総合病院 同時に建設費の負担増を院改築推進協議会の会議 要請」条件をのめながら、齋藤正毅井川町長が言 改築は(厚生連の他病院の) い切った。井川町、八郎瀧 後回しになる」と四町村 町が合併協議会から離脱 に決断を迫った。齋藤町長 し、五城目町を含めた三町 合併が完全に壊れた直後 に開かれた会議。同じく 自立を選んだ大瀧村を含む 四町村の首長らが同席し た。

推進協は、四町村が建設 の発言は、建設費償還でま 費を一部負担する条件で、 る歳出増を渋る首長への 老朽化した病院の早期改 説得だった。最終的に四町 業を設置する「A秋田厚生 村は総意で提案に同意し 連に求める組織、厚生連だ。

五城目八郎瀧井川三町

病院改築など負担増

行財政改革、待ったなし

は、十四基金のうち、使途 様、特別職、議員の給与・ 有機農産物を扱うレストラ 園道の8号沿いの大型店 三町に大瀧村、男鹿市を加 えた五市町村による広域ご 分処理施設は、二十年春の 稼働を自指し、今秋にも工 事に着手する予定。湖東総 合病院の建設費償還も控え る三町。行財政改革は待っ たなしだ。

しかし緊縮財政が必至の状 況下での歳出増は容易では ない。 五城目町は、合併破たん 後に切当通じた渡辺彦兵衛 千四百八十五万円を取り崩 町長が、就任後の一年で自 六十八万円に減少。最も残 外は新たな施策を打ち出せ 高多い教育施設整備基金 民との協働による地域く くりを図りたい」と「まじり 課」を新設。行革に向けて 動き出した。

先んずく三町定例町議会 井川町も五城目町と同 自の施策をスタート。また、 新年度には、幼児・児童 の歯科医療費無料化など独 専らではない。



五城目、八郎瀧、井川の 三町に大瀧村、男鹿市を加 えた五市町村による広域ご 分処理施設は、二十年春の 稼働を自指し、今秋にも工 事に着手する予定。湖東総 合病院の建設費償還も控え る三町。行財政改革は待っ たなしだ。

第3部 自立の行方 ⑧

本年度の村の当初予算は前年度比10・2%減の二十六億七千五百万円。村の自立計画である「まちづくり計画」(十五・二十九年度の十五年間)では、ダム建

住民生活の向上に力

少ない予算で成果狙う

な合理化策で行政の簡素化、財政のスリム化を図る予定で、計画最終年度の二十九年度の歳入歳出は、十五年度決算の約半分、二十四億円台と見込んでいます。佐々木哲男村

東成瀬村

佐々木村長は「併するしないにかかわらず、今の行政は効率ばかりが前面に

成瀬ダムの完成予想図(国交省湯沢河川国道事務所提供)



再編その後

あきた県平成の大合併

栗駒山のみもと、東成瀬村の雄物川水系成瀬川に建設される成瀬ダム、村を統

止や下流の流量確保、農業水道用水の供給を目的とする多目的ダム。総貯水量は7870万立方メートル。総事業費15億4200万円が計上されている。

成瀬ダム 洪水防 30億円。平成20年度の本体工事、20年度完成を目指す。本年度は付け替の業務。小さいからと

出ている気がする。効率化も大事だが、住民の生活を良くするのが本来の行政の業務。小さいからこそできることがあるはず」と話す。

十五年に村が行った合併に関する住民アンケートで、合併反対派が過半数を占めた。あれから三年。任期満了に伴う村長選の告示を今月十六日に控え、佐々木村長が十四日所で開いた座談会では、合併から一年で機構改革した自治体のケ

しかし村は、少ない予算でも大きな効果を挙げようから村職員が担当。行政経費の削減が本来の目的だが、職員が手なぐ回を木村長が十四日所で開いた座談会では、合併から一年で機構改革した自治体のケ

「合併した場合、規模が大さくなるほど中心部から離れるほど、自然を生かしたまちづくりを進める。」

第3部 自立の行方⑨

再編 その後

のまはら 平成の大合併

平成の大合併に伴い市町の校舎で学ぶ小中併設校が村の再編が進んだ結果、上 誕生する。三校は昨年から、小阿仁村は三千人余と、本 合同で体育も社会の授業を

県で最も人口の少ない自治 行なうとしている。 体となった。過疎、少子・ 高齡化が進む中で選択した 小中学校を維持した場合、阿 断。夏には小学生用の教室 学方法について沖田地区 備へると、約四割減少す

少子化で小中校併設

財源確保へ行革を推進

その第一弾は、沖田面と 小沢田の二保育園の統合。 本年度、旧小沢田保育園が 専に十分な時間を割かず 「かみこあに保育園」と改 称され、新たなスタートを 切った。現在、村のゼロ歳 の統合を決めた。 二つの小学校校舎が老朽 化する一方、平成元年に建 てるという女性会では

上小阿仁村

この統合について、二人 人口流出への懸念から、 もに、補助金の見直しや役 込まれている。 鷹巣阿仁地域四町との合併 場職員削減などの行政改革 本県でも特に少子・高齡 化が進行している同村だ ため、先代村長の村を受け 継いでいきたい」と述べた。

上小阿仁村の少子 化。今年3月末の人口は2144人と、8分の1近 口は3159人で、ピークに減少した。出生数は だった昭和35年(6872 昭和30~40年代の60人前後 人に比べ半分以下となっ から徐々に減り、昨年度は 小中学生は特に減少す 15人。

化する一方、平成元年に建 てるという女性会では

2保育園が統合して養育 した「かみこあに保育 園」。2、3歳児のクラ スでは、昨年まで別の園 っていた子ども同士が仲良 く遊んでいた。上小阿仁 村小沢田



が衰退している。地域の過 疎を一層進める合併は、並 村に「ブレンド」がな くと判断した。自立の道 を進んだ意欲を強調。「形 の売却とともに行革も進 進んだ意欲を強調。」形